

発行日：2016年5月5日

## 桜前線を追いかけて

吹田市 三輪 長司

自分にとっても今年の桜シーズンは特別だった。近所の桜を撮ったのが2回、家族、同級生などの花見が5回、計7回も桜の撮影や見物をした。これらは4月初旬の出来事だ。そして4月中旬には北陸へ車で2泊の桜撮影に、さらに4月下旬には東北へ航空機とレンタカーで3泊の桜撮影に行った。今年は文字通り「桜前線を追いかける年」になった。

桜の撮影場所を選ぶのは、桜の撮影ポイントや桜名所を紹介している写真ガイドだ。このガイドは毎年少しずつ内容が変わり、最近ではエドヒガンなど巨大な一本桜やシダレ桜がもてはやされている。公園に植えられているソメイヨシノでは絵にならないからだ。

しかし巨大な一本桜やシダレ桜は信州や東北などの山間部へ行かないと植えられていない。エドヒガンの一本桜は樹齢100年を超えた老木が多く、農家が苗代へ種籾を植える時期を知らせるためのものだ。一方シダレ桜は墓守として植えられているものが多い。

### 1. 桜前線を追いかける第一段は北陸

桜前線を追いかける第一段は北陸だった。最初に訪れたのは、福井市から少し山間部へ入ったところにある「一乗谷朝倉氏遺跡」だ。ここは朝倉義景が戦国時代、越前で一大勢力を築いたところで、最後は織田信長と戦って攻め滅ぼされた。その築城跡地が遺跡として整備保存され、武家屋敷も一部再建され、手入れの行き届いた見事な桜が植わっている。



《一乗谷朝倉氏遺跡》

次に訪れたのは、富山県南砺市の国道 304 号線から少し入った山田川岸に自生する一本桜「向野のエドヒガン」だ。このエドヒガンは、樹齢 100~150 年、樹高 15m、残雪の山々を背景に四方に大きく枝を広げた美しい樹形だ。最近このような美しい樹形の桜は少なくなっている。



《向野のエドヒガン》

## 2. 桜前線を追いかける第二段は東北

桜前線を追いかける第二段は東北だった。このコースは2年前に行ったのと同じだ。2年前は5月の連休直後に行ったのだけれど、直前的大雨が災いして葉桜になっていた。従って今回はリベンジとし連休直前の日程を選んだ。

ところで飛行機は、2年前は ANA で機種はボンバルディア CRJ100 だったが、今回は JAL で機種はエンブラエル E170 だった。共に 70~80 人乗りで双発の小型旅客機だ。ボンバルディアはカナダ製だが、エンブラエルはブラジル製だ。乗り心地はエンブラエル E170 のほうが静かで離着陸時の揺れも少なかった。市場の評判も高いようだ。大型機と同様 9000m の高々度を飛べるため速度が出せるので、所要時間が短くかつ燃費も良い。スチュワーデスも ANA に比べて JAL は若くて可愛い女性が乗っていた。帰りの便では JAL は定刻発だったけれど、同時刻発の伊丹行き ANA は 15 分遅れていた。現在 JAL の定刻率は世界一だそう。これらから倒産した JAL が稲盛氏の手腕で見事に立ち直ったことを実感した。

さて桜前線を追いかける第二段で最初に訪れたのは、北上市の北上川沿いの展勝地だ。北上川沿いに遊歩道が設けられ、その両側に樹齢 90 年、約 1 万本のソメイヨシノが 2km にわたって植えられている。この桜の植え付けには、大正時代の名首相で盛岡出身の原敬が尽力したそうで石碑が建っていた。この桜のトンネルの中を遊覧馬車がのんびりと運行していた。満開だった。



《北上展勝地》

次に訪れた弘前城の桜はまだつぼみだった。その次に訪れたのが角館の武家屋敷のシダレ桜だ。ここもつぼみだった。でも観光用に植えられた一部のシダレ桜は満開だった。このシダレ桜は江戸時代、ここを治めた佐竹氏が正室を京都から迎えた折、シダレ桜を持参して植えたのが始まりとされている。ここでは黒く塗られた武家屋敷の板塀にピンクのシダレ桜が映える。



《角館》

ところで角館は秋田県にある。秋田県は美人の産地として有名だ。色白が多いのと DNA がロシア人に似ているからだそうだ。古くは小野小町しかり、演歌歌手の藤あや子も角館出身だ。角館の武家屋敷通りで記念切手を売っていた女性も確かに美人だった。この美しい女性に、テレビで紹介されていた「がっこ懐石」がある食堂の場所を教えてもらい、そこへ行って食べてみた。小さな可愛い小鉢に様々な料理が並んでいるのだけれど、これは様々な漬物料理だった。あとで知っただけけれど、「がっこ」とは秋田の方言で漬物のことを指す。これには少々がっかりした。

最後に訪れたのは、日本三景の一つである松島の桜だ。松島を一望できる高台にある松島公園に、びっしりとソメイヨシノの古木が植わっている。この景色は絵葉書的だ。松島には昔に行ったことがあるが、松島に桜があるとは知らなかった。ここは満開だった。



《松島公園》

東北は南北に長いから、1回の旅で満開の桜に出会えるのは限られた地域だ。今回は仙台～北上が満開だった。2年前は雫石など岩手の高原が満開だった。弘前や角館が満開になるのは、ちょうど連休の真ん中に該当する。連休の旅費は高いが再度チャレンジしてみたい。

ところで今回の宿は岩手県安比高原のホテルだった。すぐ側にはスキーゲレンデがある。標高は数100mしかないが、ホテルの周囲には未だ1mの積雪があった。リフトも動いていて、5月の連休まで春スキーが充分楽しめるという。このホテルは規模が大きいから台湾の団体客を受け入れていた。彼らは雪が珍しいから盛んに記念写真を撮っていた。温泉大浴場では彼らと裸で一緒に入った。現在日本政府は外人観光客を精力的に誘致している。いずれ近い将来、日本の観光地では日本人は少数派になるだろう。そのようなことを今回実感した。

以上